

春から夏へ

野鳥物語 カワセミを中心に 4月～6月

令和4年6月

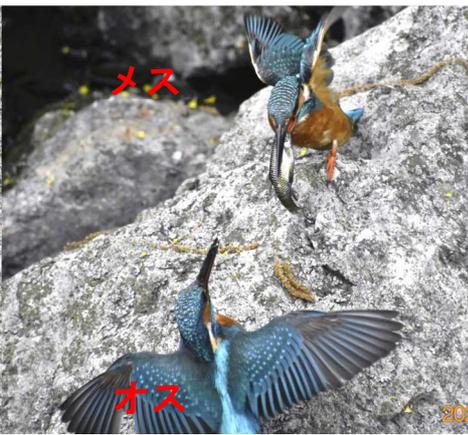
宮地利彦

サクラが散って、4月になると、自然界は降り注ぐ太陽エネルギーによって生命にあふれてくる。植物は急速に緑を増しその色も濃くなる。鳥類をはじめとする、生き物は繁殖の時期を迎える。

冬の間単独行動であったカワセミも繁殖の時期を迎え、オスが巣穴をつくる。嘴の先に泥が付いているのが観察される。巣穴は例によって、ショットクリートの穴を利用して作る。



また、オスがメス求愛給餌をして、受け入れてもらわなければならない。給餌には、ザリガニではなく、食べやすい魚が多い。食べやすいように、ここでは頭を先にして渡している。手前のオスは、左の翼の一部が折れているが、ガンバル。



プレゼントする為に、オスはせっせと狩りをする。そして、4月半ば、交尾が成立。めでたしめでたし。



オスの左の翼の一部が折れている。求愛、交尾したオス、この後、巣穴を青大将に襲われ、巣穴を放棄した。どうなるか心配していたが・・・後のお楽しみ。

春から夏へ

野鳥物語 カワセミを中心に 4月～6月

令和4年6月
宮地利彦

エナガも子育ての季節、目の回りが赤い幼鳥が飛び交っている。



これは成鳥？



右の2枚は目の回りが赤い幼鳥、幼鳥は模様が未だはっきりしていない



カワセミは卵が孵化すると、夫婦交代で餌を巣穴に運んで、幼鳥に与えるのに忙しくなる。



雛に与える餌は食べやすい魚、向きを整えて、巣穴に居る雛に頻繁に運ぶ。ついに幼鳥が姿を見せた。幼鳥は保護色なのか、色が親と違って地味だ。



2羽の幼鳥に給餌するオスのカワセミ。



スズメも子育て、近くに親鳥が居た。
(右)



シジュウカラも子育て中、上の親が下の子に給餌している



餌・幼虫



餌・幼虫

春から夏へ

野鳥物語 カワセミを中心に 4月～6月

令和4年6月
宮地利彦



巣穴に卵を産んだコゲラ。交代で温め、孵化後餌を運んできた。この後、巣穴を鳥に襲われて、育児放棄してしまっ。弱肉強食の世界。巣穴は径 30mm くらいの正円の形をしていた。



ホバリングして、空中で同じところにとどまって、水中の餌を探す。カワセミの捕食行動。



狩りの練習に余念がない幼鳥。
親が子にバトルの教育？



合歓の木の花



小魚、ザリガニが獲物で～す。



蓮の花が咲きだした。

春から夏へ

野鳥物語 カワセミを中心に 4月～6月

令和4年6月

宮地利彦

6月、4月に交尾したカップルの幼鳥が巣立った。数日間は親が餌を運んでくる。親が餌を運んでくると子供たちが寄ってくる。子供たち同士一緒にいることも多い。



このパパは4月に交尾していた左の翼が一部欠けている雄。子育て中。そして、2番子を目指して、交尾。

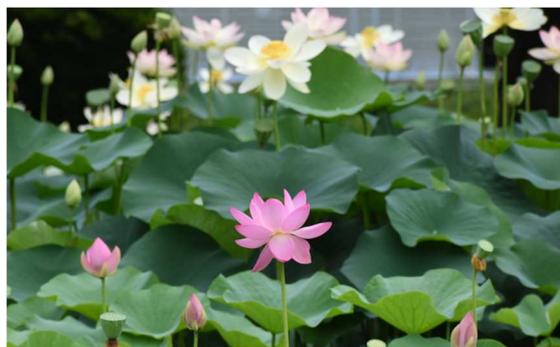
幼鳥が飛び込みの練習。
獲物はとれなくても練習・練習。体の色は保護色なのか、まだ鈍い。



親鳥はちょっと離れて見守っている

ご存知カルガモの子供たち。

ピンクのハスは、2000年前の種を発芽させて、増やしたもの。(府中市)



YouTube 交尾 <https://youtu.be/sI7UhBuzRfA>、ホバリング <https://youtu.be/b1sWFXVKCFM>
幼鳥の遊び <https://youtu.be/KhRZ25d06bo>

完